

## PFMセンター

### 【人員体制】

センター長 1名 副センター長 1名  
 看護師 9名（退院支援専従看護師 1名  
 退院支援専任看護師 2名）  
 保健師 1名 事務員 3名 MSW 7名  
 （退院支援専任社会福祉士 2名）  
 ＊診療情報管理士 1名  
 薬剤師 1名 栄養士 1名  
 各領域の認定看護師（＊応援体制）

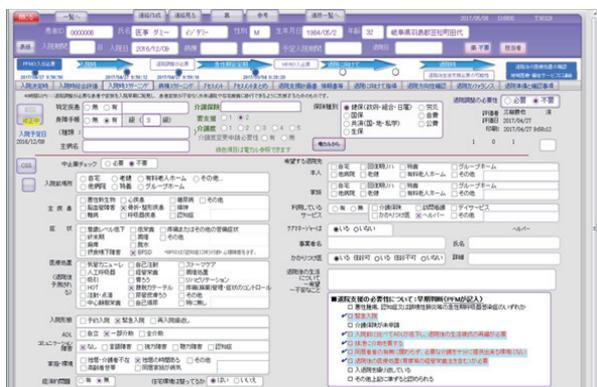
### 【概要】

当院では、複数機能の病棟を運用すると同時に、法人内の訪問看護ステーション、介護老人保健施設と連携して運用することを踏まえ、「患者の流れをスムーズにかつ効率的にする」を実現する為に入院センター（以下 PFM）を 2014 年 7 月に開設しました。2017 年 4 月からは、PFM 内の整理と連携を強化することを目指し、PFM 内に退院調整室を統合し 1 年が経過しました。その取り組みと結果を報告いたします。

### 【2017 年度の取り組み】

退院調整室と統合したことによる退院支援に関連する事柄の整備と、それに従事する FileMaker 仕様のシステムを、患者の流れが把握できる情報共有システム（松波総合病院型 PFMsys / 図 1）に進化させ、入院時から退院後までの情報を多職種で入力し、共有できるように可視化しました。

図 1 松波総合病院型 PFMsys



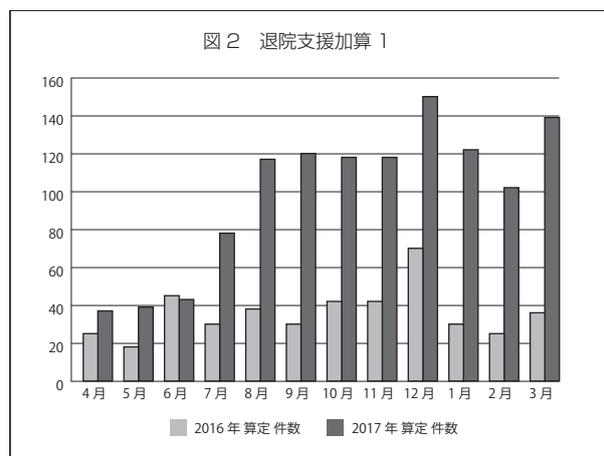
また、退院調整専従看護師、退院調整専任看護師や退院調整専任社会福祉士及び退院支援業務に専従する職員（社会福祉士や看護師）の配置を活

動しやすいように変更しました。さらに、退院調整室の退院調整専従看護師や退院支援業務に専従する職員などを中心に退院困難な患者の抽出を患者入院 3 日以内に着手すること、患者・家族との面談を 7 日以内に行うこと、退院調整カンファレンスを 7 日以内で開催すること等の業務の見直しを行うことで、実践的な仕組みができあがりました。結果的に退院支援加算 1 の算定（図 2）が増加し、さらに退院先として在宅（図 3）が増加しました。

新しい取り組みとして、がん患者の相談窓口を社会福祉士中心で開設し、制度説明や就労支援などへの介入を予約で開始しました。

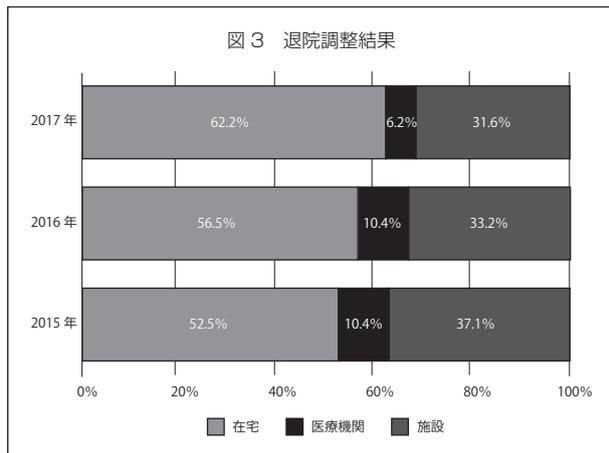
### 【2017 年度の実績】

一般急性期平均稼働率 96%、平均在院日数は 12.72 日、平均年間入院患者 14,064 人退院支援加算 1 の算定数は 1,179 件 / 年でした。

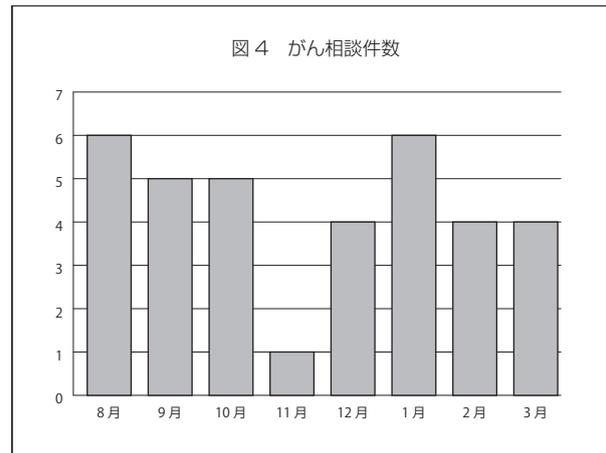


入院時に患者・家族の入院中の思いや退院後の生活の姿を聴取し、退院調整カンファレンスを確実に行うことで、退院後の生活支援に早期に介入することができました。

また、医師、病棟看護師、PFM 専従スタッフ、退院調整専従看護師など多職種と連携を持ち、介入することで、在宅への退院が増加したと考えられます。



がん相談窓口は、2017年8月に開設し、2018年3月末までに33件の相談がありました。(図4)相談内容は、医療費や高額医療費について28件(85%)でした。それ以外には、社会福祉制度や傷病手当や後期高齢者医療保険についてなどが5件(15%)でした。一年間でがんと告知された患者数は681件でした。よって今後は、予約以外でも、関わる事ができる仕組みを考えていく必要があります。



また、入院患者の退院調整とともに医療福祉相談にも応じ、当院に受診される全ての患者が不安なく治療を受けられるよう、福祉の立場から患者支援を行っています。相談延べ件数は15,967件でした。大きくは4分野に分類でき、その内訳は医療費等経済的援助761件、転院等社会的援助13,366件、心理的援助49件、その他書類処理等1,791件でした。

#### 【おわりに】

このように、PFM内の業務内容の整理と基盤づくりを図ることができました。今後は院内・院外との連携と効率性を強化するために、紹介情報の迅速かつ的確な対応を目指して、前方連携に重点を置くことになりました。よって、2018年4月からは、PFMと地域連携室が統合し、前方連携の強化を目指します。

[文責：三輪典古]